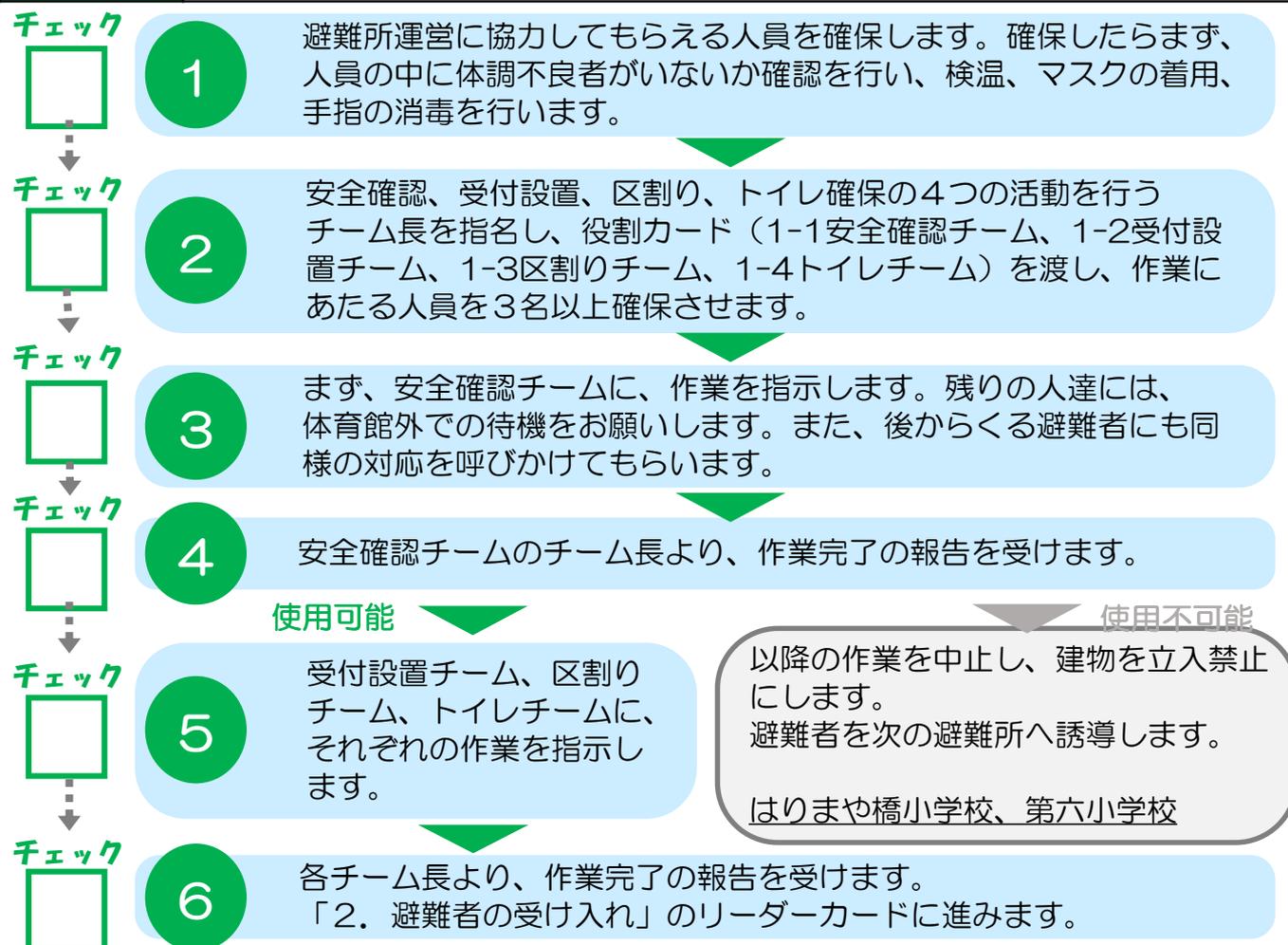


1. 避難所を開設するための準備

リーダーカード

役割	避難所の開設に必要な活動を行うチーム長を決定し、作業を指示します。
使うもの	<input type="checkbox"/> 役割カード（1-1安全確認チーム、1-2受付設置チーム、1-3区割りチーム、1-4トイレチーム） <input type="checkbox"/> 感染症対策セット（非接触型体温計・手指消毒液・マスク） <input type="checkbox"/> 筆記用具 <input type="checkbox"/> （参考資料）リーダーの指示順序
注意点	<input type="checkbox"/> 単独で作業にあたらせないでください。



ポイント



●少ない人員でうまく役割分担するためには

- 役員の参集状況に応じて、リーダーを変更することができます。
- 参集人数が少なく、チーム編成が困難な場合は、複数のチームを兼任させます。
- 行政職員が居合わせた場合は、チームの一員として運営に携わります。中でも「2-9災害対策本部との連絡」を優先して行います。
- 教職員等施設管理者が居合わせた場合は、施設に関する情報（備蓄品の保管状態や施設の使用可否）の確認を、協力して行います。
- 運営期になると、ボランティアなど、外部から支援が来ることも考えられます。清掃や物資の配給など、一時的に任せられるところを中心に協力を仰ぎます。

(参考資料) リーダーの指示順序

避難者を受け入れられるよう、避難所の安全性を確認し、建物の受け入れ準備を行います。

避難所を開設するために必要な準備作業は、次の4項目です。

リーダーは、各作業チームのチーム長を決定し、役割カードを渡して、作業を指示します。各チーム長は、作業を実施する人を確保して活動を行い、リーダーに作業の進捗状況や完了を報告します。

【役割の移行】

避難所を開設するための準備



リーダーの
指示順序

報告

1

安全確認チーム (3名以上)

必要なもの	保管場所
●避難所安全確認チェック表 ●ヘルメット等	本館西側2～3階 階段
●建物のカギ	新館1階キーボックス

建物の安全が確認できたら、次の作業を指示します。

作業する人員を確保できれば、複数の作業を同時に指示します。

2

受付設置チーム (3名以上)

必要なもの	保管場所
●机、椅子	体育館
●避難者受付セット ●感染症対策セット	本館西側2～3階 階段

3

区割りチーム (3名以上)

必要なもの	保管場所
●避難所区割りセット ●手指消毒液	本館西側2～3階 階段
●フロアシート	体育館2階 ステージ下

4

トイレチーム (3名以上)

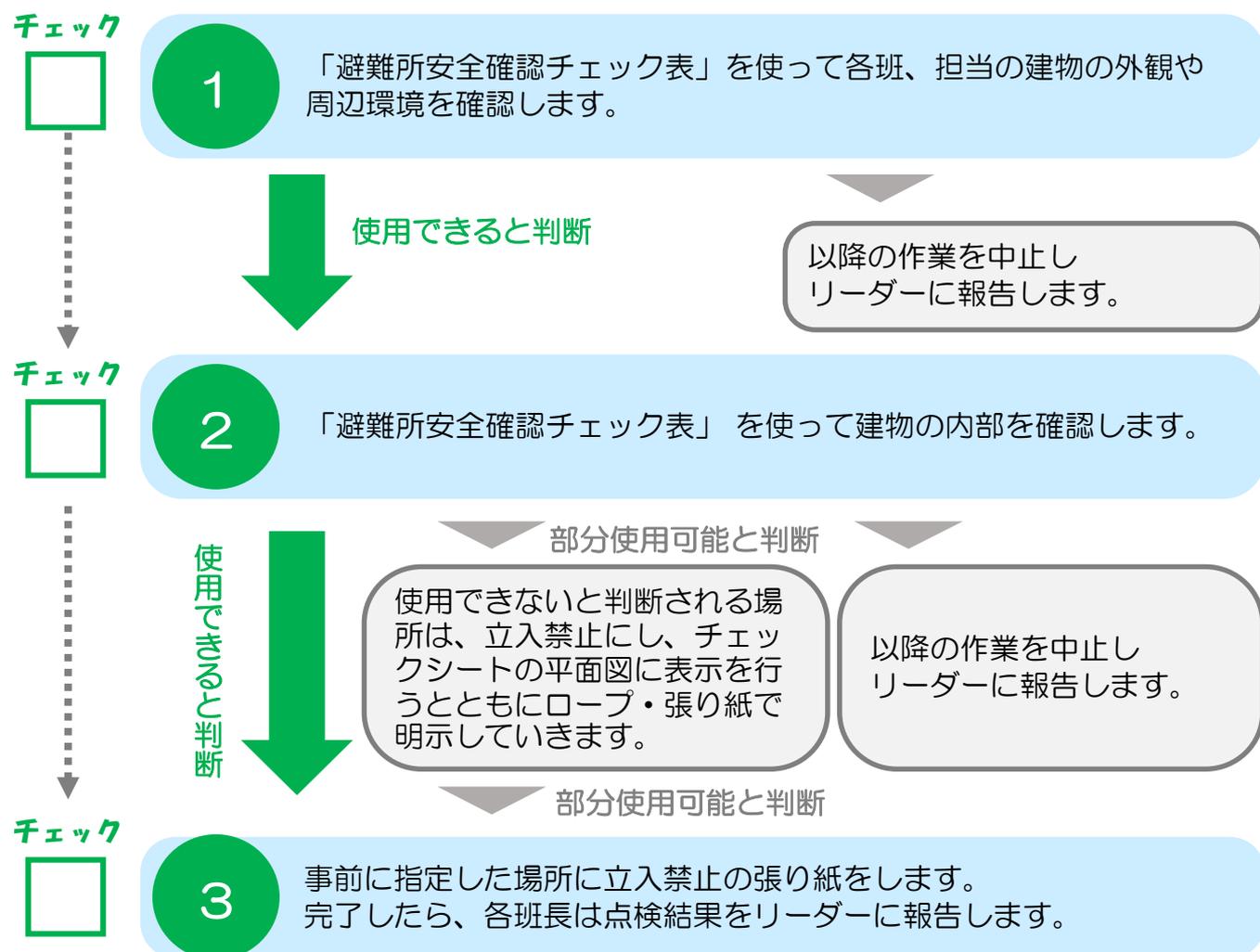
必要なもの	保管場所
●トイレ応急対策セット ●手指消毒液	本館西側2～3階 階段

1-1

避難所の安全確認

安全確認チーム
カード

役割	避難所として使用できる状況か、安全を確認します。	3名以上
使うもの	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 「避難所安全確認チェック表」 <input type="checkbox"/> 自宅等から持参したヘルメット・拡声器・懐中電灯（夜間の場合） <input type="checkbox"/> 張り紙（各班5枚）、コピー用紙（各班5枚）、テープ 	
注意点	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> ご自身の安全を最優先に行ってください。 <input type="checkbox"/> 点検する際には、複数の作業人員を指名し、チームを作ってください。 <input type="checkbox"/> 作業時には、ヘルメットを着用してください。 <input type="checkbox"/> 建物の安全確認を終えるまで、建物内部に避難者を立ち入らせないでください。 <input type="checkbox"/> 建築士等、専門の資格を持った方に、協力を呼びかけましょう。 	



建物のカギの入手方法

1

【カギ保管場所からカギを入手する場合】
自動解錠装置付きキーボックス（震度5弱で自動解錠）からカギを入手します。



2

カギを開けます。



●キーボックス内の鍵

- ①新館南入口
- ②正・西・東共通 南京錠用鍵
- ③新館4階 LL教室
- ④新館4階 音楽室
- ⑤新館4階 音楽準備室
- ⑥新館4階 LL準備室
- ⑦新館4階 視聴覚教室(東入口)

1

【カギ保有者からカギを入手する場合】

カギを入手できる

カギを入手できない

2

カギの管理者に解錠してもらいます。

建物の外観や周辺環境の安全確認の後、入口の窓の一部を壊し、建物の解錠を行います。

避難所安全確認チェック表

余震などによる二次災害を防ぐため、開設前に施設の応急的な安全確認を行います

※施設に危険を感じる場合は、避難所としての使用を控えてください。

※確認者の安全を第一とし、明らかに危険な場合は、実施しないでください。

※施設の安全が確認できるまでは、避難者を建物内に立ち入らせず、駐車場などで待機させましょう。

① 建物の外観や周辺環境に関する確認

1	隣接する建物が傾き、避難所に倒れ込む危険があるか	ある	ない
2	周辺で地滑り、崖崩れ、液状化、地盤沈下があったか	ある	ない
3	建物の基礎が壊れていないか	ある	ない
4	建物自体の傾きがみられないか	ある	ない
5	外壁が落下したり、大きな亀裂が入ったりしていないか	ある	ない
6	骨組みが壊れたり変形したりしていないか	ある	ない
7	1～6以外に、危険性を強く感じる点がないか	ある	ない

※「ある」に1つでも○がある場合は、避難所として活用できません。
速やかに建物から離れ、事前に決めた優先順位に基づいて、次の避難所へ移動します。

※全て「ない」なら、
②建物内部の確認へ進みます。

② 建物内部における確認

8	床が大きくゆがんだり、割れたりしていないか	ある	ない
9	柱が折れたり、割れたりしていないか	ある	ない
10	内壁に大きなひび割れがあったり、崩れ落ちたりしていないか	ある	ない
11	ゆがんで開閉できないドアが複数箇所ないか	ある	ない
12	天井の落下がないか	ある	ない

※「ある」に1つでも○がある場合は、避難所として活用できません。
速やかに建物から離れ、事前に決めた優先順位にもとづいて、次の避難所へ移動します。

※全て「ない」なら、避難所として活用可能です。

※これらのチェック項目はあくまで応急的な確認を行うためのもので、安全を保証するものではありません。

※これらのチェック項目で使用可能となった場合も、災害対策本部に要請し、できるだけ早期に応急危険度判定士による判定を実施しましょう。

※避難所開設時点で安全であっても、その後の余震等によって状況が変化する場合がありますので、適宜再確認を行いましょう。

避難所安全確認のポイント（損傷程度の事例）

建物が以下の写真のような状況にあれば危険と判断します。

○窓ガラスの割れ、サッシのゆがみ等
広範囲で危険性を感じる



1)

○柱の亀裂や破損、接合部の破損



2)

○外壁や柱の傾斜、破損



3)



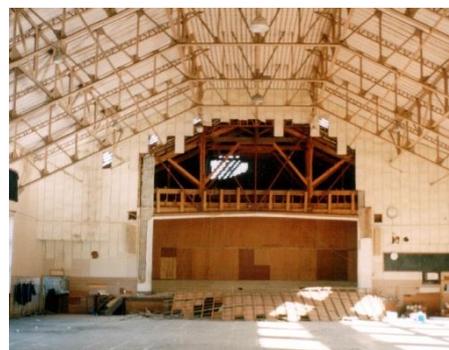
3)

○ガラスや照明、天井材のズレ、落下



3)

○内壁の大きなひび割れ、崩れ落ち



4)

- 出典：1) 高知県住宅課
2) (株)第一コンサルタンツ
3) 災害に係る住家の被害認定基準運用指針 参考資料（損傷程度の例示）
平成26年3月 内閣府（防災担当）
4) 新潟県小千谷市提供

1-2

受付の設置

受付設置チーム
カード

役割

受付を設置します。

3名以上

使うもの

- 机、椅子
- 靴用ビニール袋
- 避難者受付セット（避難者カード、筆記用具、懐中電灯、名簿用紙 等）
- 感染症対策セット（非接触型体温計、手指消毒液、マスク）

注意点

- 避難者が必ず受付を通るよう工夫してください。

チェック



1

避難所の安全確認が完了した後、リーダーから受付の設置の指示を受けます。

チェック



2

体育館入口に机と椅子を並べて、受付を設置します。
紙と筆記用具で受付の表示をします。

チェック



3

配布する 避難者カード・筆記用具を準備します。
受付で使用する非接触型体温計と手指消毒液、マスクを準備します。

チェック



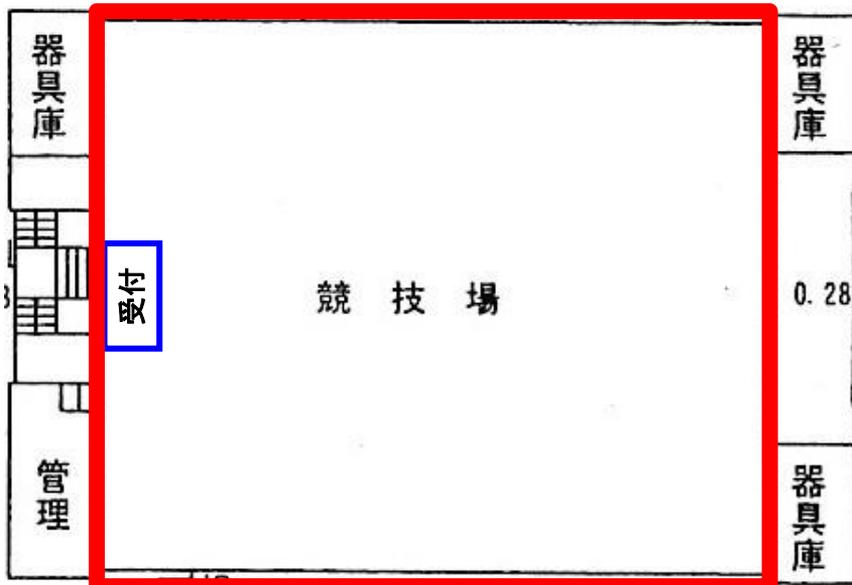
4

チーム長は、受付の設置が完了したことをリーダーに報告します。

設置イメージ

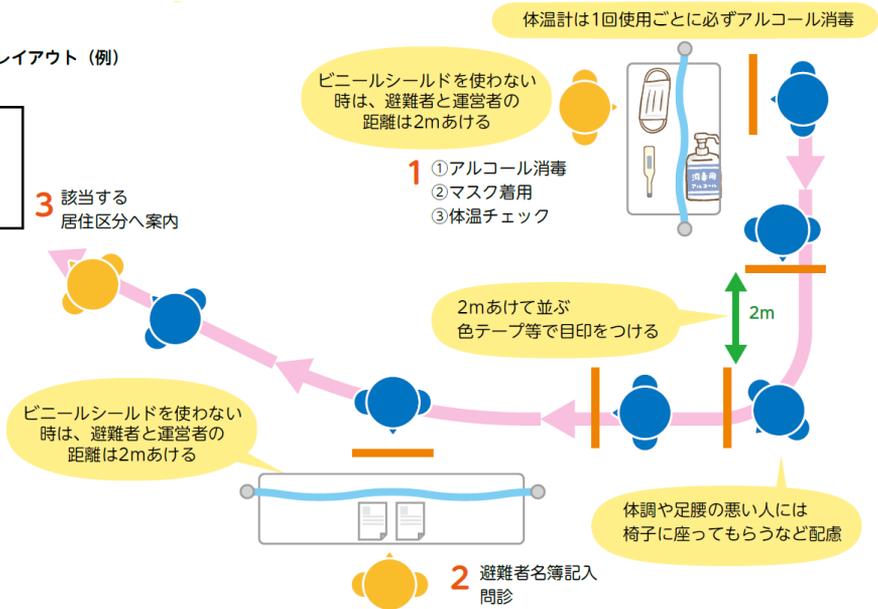
体育館2階

津波浸水が1m～2m想定されているため、
受付は2階に設置します。



受付レイアウト (例)

受付に広い場所が確保できる場合は、受付を分ける等工夫をしましょう。



【引用文献】

認定NPO法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)、「新型コロナウイルス 避難生活お役立ちサポートブック第2版」

感染症対策の考え方

- 発熱など体調不良の方（付き添われる方を含む）の滞在スペースとそれ以外の避難者の滞在スペースを区分し、各スペース間の往来を禁止するように呼び掛けましょう。（事前に施設管理者等と協議し、専用スペースについて検討しておきましょう。）
- 滞在スペースでは、感染拡大防止のため、各世帯単位同士の距離を2m以上開けてもらうように努めましょう。
- 体調不良の方の滞在スペースでは、避難者同士の距離を2m以上開けることに加えて、段ボール間仕切り等を用い、個別スペースを確保しましょう。

大規模災害時にすべての項目を実施するのは困難ですが、可能な限り対応しましょう。

1-3

避難所の区割り

区割りチーム
カード

役割

避難所に、通路や地区別の避難位置などを指定し、スムーズな受け入れができるよう、避難所の区割りを行います。

3名以上

使うもの

避難所区割りセット（カラーコーン、地区名、メジャー 等）
 フロアシート 手指消毒液

注意点

ご自身の安全を最優先に行ってください。

チェック



1

避難所の安全確認が完了した後、リーダーから避難所の区割りの開始指示を受けます。人手が足りないと感じた場合は、避難者の中から協力者を確保して作業を手伝ってもらいます。

チェック



2

体育館2階のステージ下収納より、必要なもの（フロアシートなど）を出します。



体育館のステージ下収納
イメージ写真



フロアシート
イメージ写真

チェック



3

事前に検討した配置計画図に基づき、フロアシートなどを用いて通路を確保するなどし、区割りを行います。



区割り
イメージ写真

チェック



4

配置計画図に基づき、居住スペースやその他のスペースの表示を行います。

チェック



5

主要な居住スペースの入口等に手指消毒液を設置します。

チェック



6

体育館の区割りが完了したら、チーム長はリーダーに報告します。

配置計画図(敷地内全体)



高知追手前高校への避難は、原則徒歩とする。

浸水被害想定が1m~2mであることを考慮し、低層階の校舎施設は、この避難所運営マニュアルにおいて、使用を想定しないものとする。

感染症対策の考え方

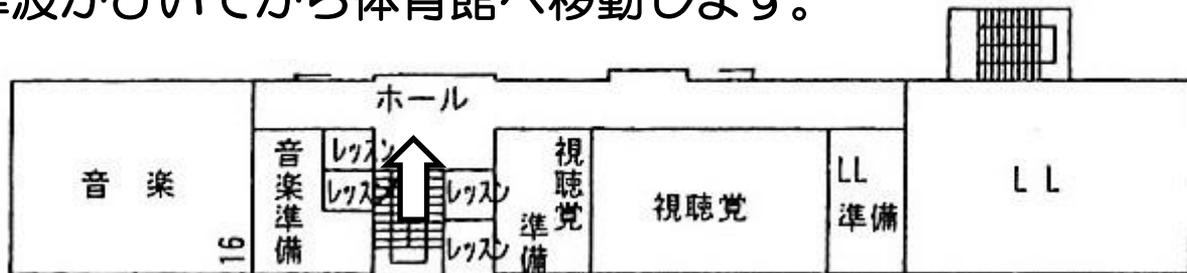
- 発熱など体調不良の方（付き添われる方を含む）の滞在スペースとそれ以外の避難者の滞在スペースを区分し、各スペース間の往来を禁止するように呼び掛けましょう。（事前に施設管理者等と協議し、専用スペースについて検討しておきましょう。）
- 滞在スペースでは、感染拡大防止のため、各世帯単位同士の距離を2m以上開けてもらうように努めましょう。
- 体調不良の方の滞在スペースでは、避難者同士の距離を2m以上開けることに加えて、段ボール間仕切り等を用い、個別スペースを確保しましょう。

大規模災害時にすべての項目を実施するのは困難ですが、可能な限り対応しましょう。

- 津波がひくまで、津波避難ビルのスペースとなっている本館4階で待機する。
- 避難所は体育館をメインに使用し、満室になった場合は新館と本館の指定の教室を使用する。
- 新館と本館は津波浸水を想定し、3階以上の部屋を使用する。

配置計画図(新館4階)避難時の待機場所

津波から命を守るために、新館1階入口のキーボックスに格納されているカギで入口のドアを開け、階段で4階へ上がり、空いたスペースで待機してください。
津波がひいてから体育館へ移動します。



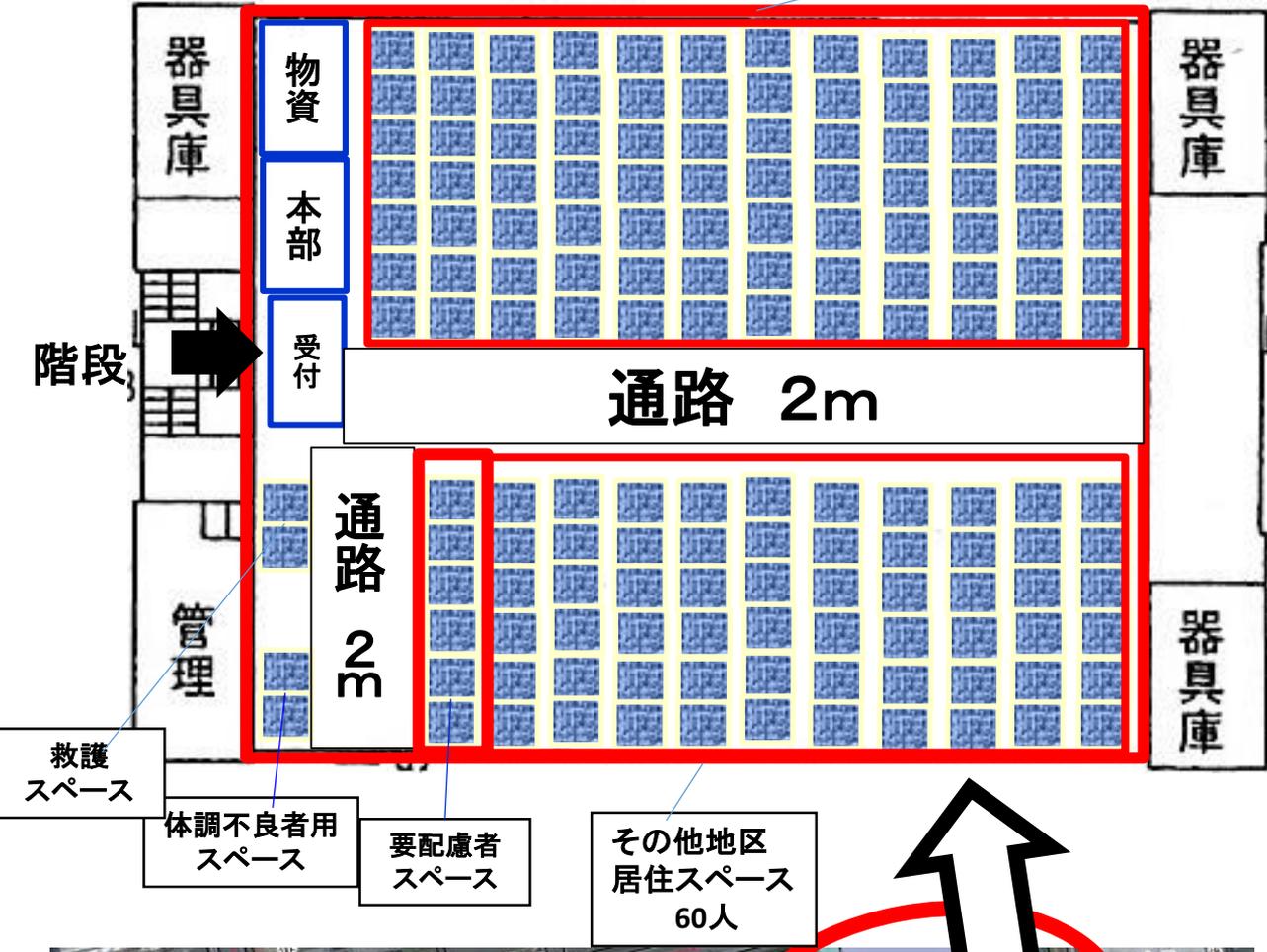
津波がひくまで、津波避難ビルのスペースとなっている本館4階で待機する。
 避難所は体育館をメインに使用し、満室になった場合は新館と本館の指定の教室を使用する。
 新館と本館は津波浸水を想定し、3階以上の部屋を使用する。

配置計画図(体育館2階 競技場)

津波がひいてから、体育館へ移動します。 体育館の使用可能スペースは2階のみです。

図は、1人あたりの使用面積 $2m \times 2m = 4m^2$ で算出。
 スペースが足りない場合は臨機に対応する。
 隣接する居住スペースどうしの間隔 = 1m。

高知街 居住スペース
84人



津波がひくまで、津波避難ビルのスペースとなっている本館4階で待機する。
 避難所は体育館をメインに使用し、満室になった場合は新館と本館の指定の教室を使用する。
 新館と本館は津波浸水を想定し、3階以上の部屋を使用する。

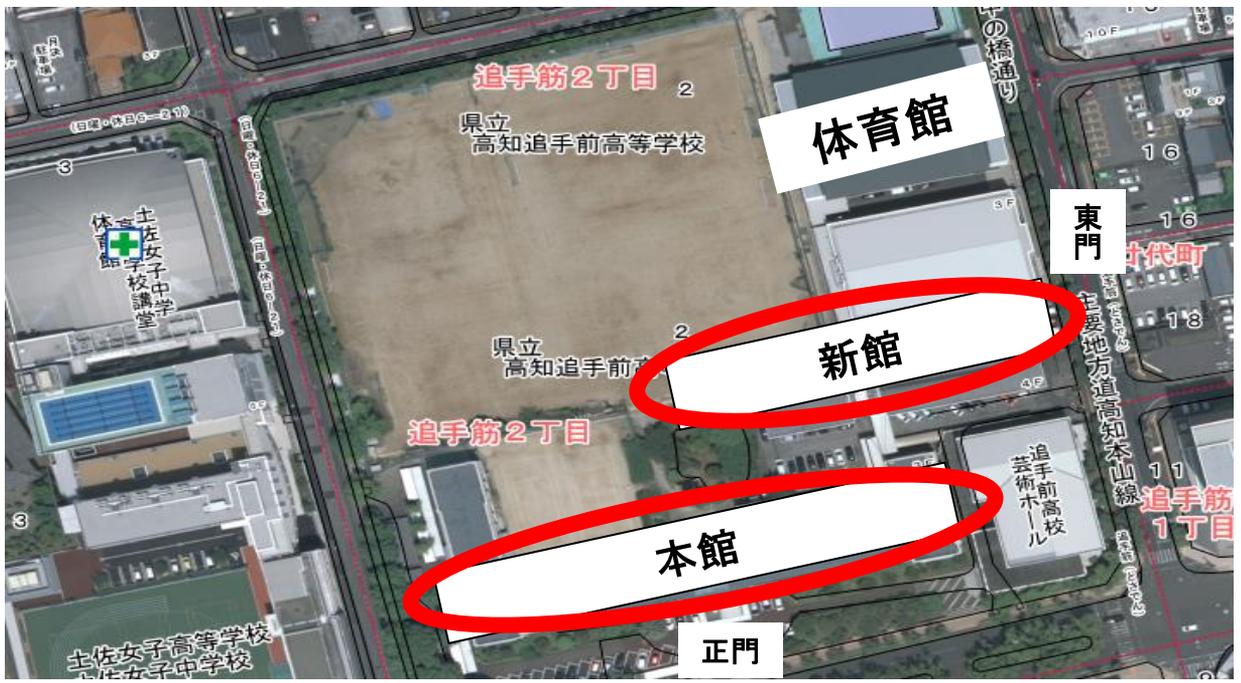
配置計画図(新館3階教室、本館3階教室)

体育館が満室になったら、本館3階と新館の3階の教室を使用します

新館3階



本館3階

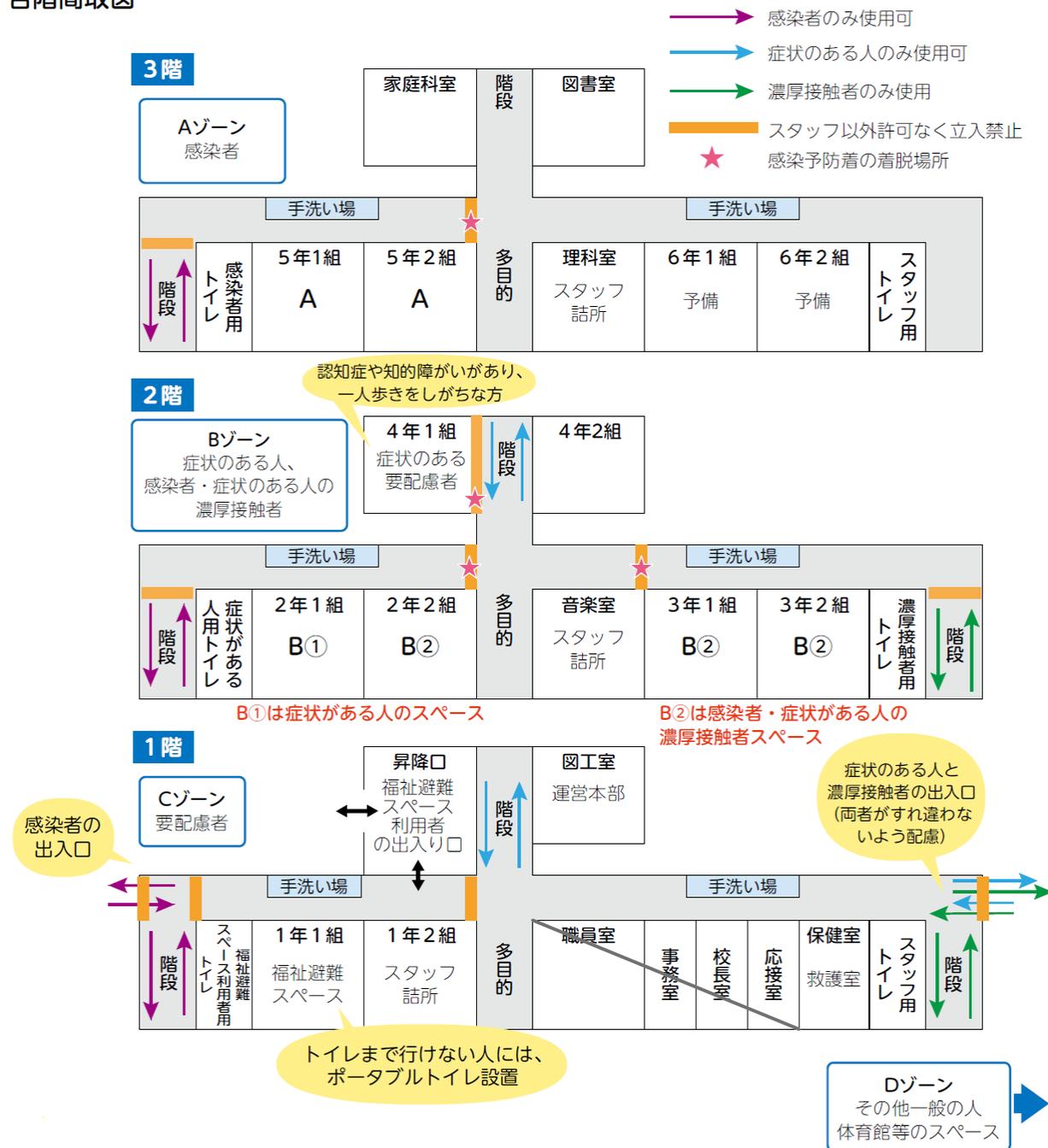


(参考資料) 配置計画図 (感染症対策)

ゾーニングレイアウト (例)

Aゾーンの対象者は、医療機関等への移送が大原則です。下記の図は、あくまでも大規模災害時のやむを得ない場合のゾーン分けの参考例です。

各階間取図



【引用文献】

認定NPO法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)、「新型コロナウイルス 避難生活お役立ちサポートブック第2版」

1-4

トイレの確保

トイレチーム
カード

役割

既設トイレの状況確認、使用禁止の周知、簡易トイレの設置を行います。

使うもの

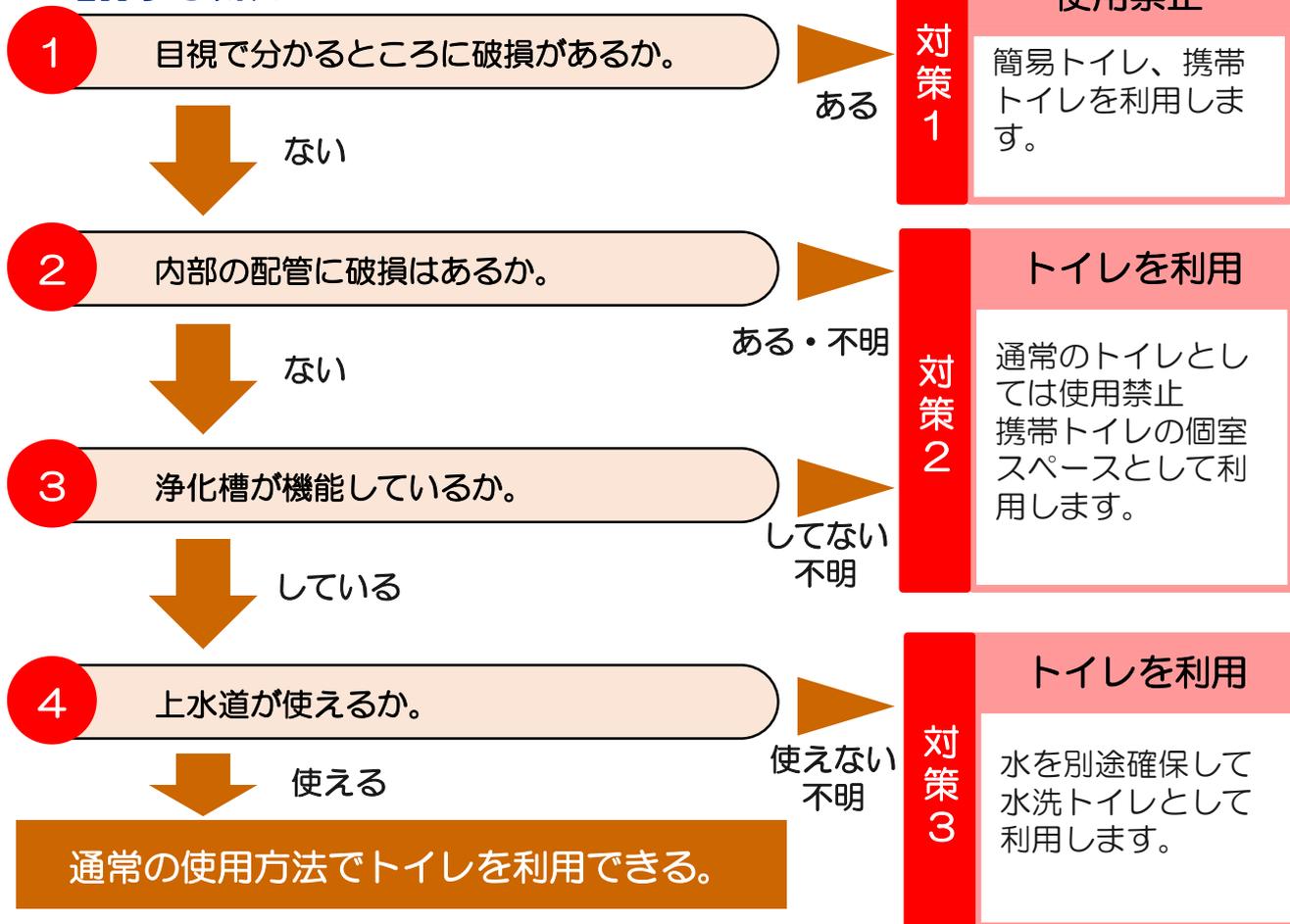
- トイレ応急対策セット（簡易トイレ、テント、処理剤等）
- 張り紙用紙、ペン、テープ 等
- 手指消毒液

注意点

- 既設トイレが使用できない場合や状況が不明の場合は、早急に使用禁止を周知します。

（→ 基本的には水は流せないものとして対応）

●確認する流れ



※体育館のトイレで足りない場合等は、屋外仮設トイレスペースに簡易トイレを設営します。



簡易トイレ



簡易テント



処理剤セット

トイレ 応急 対策 方法

対策 1

簡易トイレ、携帯トイレを利用します。

- 1 下記の張り紙とバリケードで立入禁止にします。

立入禁止

**このトイレは
使用できません。**



簡易トイレ、テントの
設置イメージ図

- 2 屋外に簡易トイレや携帯トイレ、災害用トイレを設置します。
※簡易トイレや携帯トイレを用いる場合は、テントなどを利用して、プライバシーを保護するスペースを確保します。
※男女別に分けて使用できるようにします。
※体調不良の方とその他の方が利用するトイレを分けて使用できるようにします。
※トイレの出入り口に消毒液を設置します。

○簡易トイレ、携帯トイレのイメージ

簡易トイレ



携帯トイレ



※組み立てが必要なものもあります。

○仮設トイレのイメージ

仮設トイレを設置する場合は、汚物の回収や水の調達が容易なところを選定します。



トイレ 応急対策方法

対策2

通常のトイレとしては使用禁止にします。
(内部配管に破損があるまたは不明、浄化槽が機能しない場合)

配管の状況が確認できないため、水を流すことは禁止とします。
※体調不良の方とその他の方が利用するトイレを分けて使用できるようにします。
※トイレの出入り口に消毒液を設置します。

- ① 携帯トイレ（ビニール袋と凝固剤）を配置します。
- ② 携帯トイレを捨てるゴミ袋を設置します。

※使用方法イメージ



- ③ 次の内容の張り紙を掲示します。

このトイレは水を流せません。

- 使用後は、漏れないように結んでゴミ袋に捨ててください。
- ゴミ袋が一杯になった場合は、可燃ゴミとして、ゴミ集積所へ持って行ってください。

携帯トイレの使い方

- ① 下のように配置。



- ② 結んでゴミ袋に捨てる。



(イメージ図)

ポイント



● トイレ用の凝固剤が手に入らない場合

- 紙おむつや細かく裂いた新聞紙をビニール袋の中に入れるなどしてにおいの発生を抑えます。
- ペット用のトイレ砂や消臭剤、乾燥したお茶がらなども消臭に効果があります。

トイレ 応急 対策 方法

対策3

水を別途確保して利用する
(上水道が使えない場合)

1 用水路やプールの水をバケツなどに準備します。

※水の運搬は重労働です。早いうちに作業分担を決めることが重要です。また、避難者にも随時協力を呼びかけます。

※やむを得ず、ティッシュペーパーなどの水に溶けない紙を使用する場合には、流さずにゴミ袋などを用意して、それに捨てるようにします。

※トイレ用の水は、衛生面から手洗いなどには使用しないようにします。

※バケツ等の配置方法イメージ



※ゴミ袋設置イメージ



2 次の内容の張り紙を掲示します。

このトイレは水が出ません。

(流すことはできます)

- 水は、バケツで用水路、プールのものを確保します。
- トイレ用の水は、衛生上の観点から、手洗いには使用しないでください。
- やむを得ず水に溶けない紙を使用する場合は、流さないで、別途準備してあるゴミ袋に捨ててください。
- 水が少なくなったら互いに協力して、水汲みをしてください。

※体調不良の方とその他の方が利用するトイレを分けて使用できるようにします。
※トイレの出入口に消毒液を設置します。